

札幌保健医療大学大学院保健医療学研究科

アセスメント・ポリシー

アセスメントの目的・概要

- 札幌保健医療大学大学院保健医療学研究科（以下「本研究科」とする。）では、法人・大学の理念・目的の実現のため、ディプロマ・ポリシー（D P）、カリキュラム・ポリシー（C P）、アドミッション・ポリシー（A P）を策定して教育研究活動を行うとともに、恒常的な改善・向上に取り組むことにより、その質の保証に努める。
- 本研究科のアセスメントは、大学・教育課程レベル、授業科目レベル、学修到達レベルで実施する。各レベルにおいては主に大学・教育課程レベルにおける学修成果の達成状況とカリキュラムの適切性、授業科目レベルにおける到達目標の達成状況と教育内容・方法の適切性、学修到達レベルにおける個々の大学院学生の学修成果の達成状況を評価する。加えて、各レベルにおいて教育改善・向上に寄与するアセスメントを合わせて実施する。なお、本ポリシーにはC P、A Pの実施状況、効果検証に関する評価プランを含める。C Pについては、定められた教育内容・方法の実効性、学修成果の達成に対する有効性を、A Pについては、入学者と定められた人材像との適合性、入試内容・方法の適切性を確認する。
- アセスメントは、学生の学修成果物を対象とする直接的評価、アンケート等による間接的評価を組み合わせで行う。
- 各レベルの評価では、「入学前・入学時」においてA Pを満たす人材かどうか、「在学中」においてC Pに則って学修が進められているかどうか、「修了時・修了後」においてD Pを満たす人材になったかどうかを把握し、必要に即して各レベルでの改善をはかる。

アセスメントの評価レベル

- 大学・教育課程レベル
 - ・ 大学・教育課程レベルの評価をとおして教育研究組織としての適切性を検証し、改善・向上に活用する。
 - ・ 学修成果を全体として評価するとともにカリキュラムの適切性を検証し、改善・向上に活用する。
- 授業科目レベル
 - ・ 個々の授業科目で設定する到達目標の達成状況を評価するとともに授業内容・方法の適切性を検証し、改善・向上に活用する。
- 学修到達レベル
 - ・ 学生個々の学修到達状況の評価を行い、学修計画の立案や学修指導の改善に活用するとともに、学生自らが学修到達レベルを他者に説明できるようにする。

アセスメント・リスト

実施時期 レベル	入学前・入学時	在学中	修了時・修了後
大学・教育課程レベル	(直) 各種入学試験における試験科目の成績評価 (小論文試験、面接試験、英語試験)	(直) 研究計画書の評価	(直) 修士論文の評価
	(間) 各種入学試験における出願・受験状況	(間) カリキュラム関係の評価 (間) 科目履修状況、及び単 位修得状況 (間) 各科目の成績評価 (間) 退学者・休学者数	(間) 学位授与数 (間) 学修成果の達成状況 評価 (間) 学生生活等にかかわ るアンケート (間) 修了生アンケート
授業科目レベル		(直/間) 各科目が設定す る評価方法に基づく評 価 (間) 授業評価アンケート	
学修到達レベル		(直) 研究計画書の評価	(直) 修士論文の評価
		(間) 各科目の成績評価	(間) 学修成果の達成状況 評価

(直) 直接的評価、(間) 間接的評価

主なアセスメント項目の目的・内容

- 各種入学試験における試験科目の成績結果
小論文、および面接試験は評価用ルーブリックを用いて評定し、A Pが定める人材像との適合性を把握する。加えて、評価結果をもとに試験方法・内容の妥当性・適切性を検討する。
- 研究計画書の評価
研究計画書の評価用ルーブリックを用い、評価基準の達成状況を把握する。大学・教育課程レベルにおいては、全体の評価結果から教育課程に係る課題の有無を確認し、改善・向上に結び付ける。学修到達レベルにおいては、自己評価と教員評価により個々の学生の研究進行にかかわる課題を明確化し、以後の研究活動に役立てる。
- 修士論文の評価
修士論文の評価用ルーブリックを用い、評価基準の達成状況を把握する。大学・教育課程レベルにおいては、全体の評価結果から教育課程に係る課題を確認し、改善・向上に結び付ける。学修到達レベルにおいては、自己評価と教員評価により個々の学生の到達状況を確認する。
- カリキュラム評価アンケート
カリキュラム編成、各科目の内容・方法に関する評価より、それらの適切性を把握し、改善・向上に役立てる。
- 学修成果の達成状況評価
D Pの到達状況に関し、評価用ルーブリックを用いて学生自身で達成水準を評価する。大学・教育課程レベルにおいては、全体の評価結果から学修成果の達成状況を確認し、課題が発見された場合は改善・向上に結び付ける。学修到達レベルにおいては、学生個々が学修成果を確認し、今後の諸活動に役立てる。

- 授業評価アンケート
各授業科目での学修到達度、学修満足度、シラバスの実施状況等について質問紙調査を行い、授業改善に役立てる。
- 学生生活等にかかわるアンケート
学修環境、学習・生活状況、満足度等を把握するため質問紙調査を行い、学修環境等の改善に役立てる。

アセスメントの実施体制等

- アセスメントの実施組織は研究科運営会議とし、研究科委員会で検証の上、全学内部質保証推進組織に上程する。なお、必要時、運営会議に、実施に関わる部会を設置する。
- アセスメントに関わる各種データの取り扱いについては関係規定を遵守するとともに、個人情報の保護に努める。
- アセスメントの結果、および改善状況等について、ホームページ等を活用して学内外に公表する。

アセスメント・スケジュール

別紙のとおり。

参 考

ディプロマ・ポリシー

1. 保健医療学の視点から自己の専門性を高めるとともに他職種の知識・技術に関する理解を深め、それらを保健医療の実践に活用できる能力を有している。
2. 保健医療学の役割・仕組みを総合的に理解し、健康・生活・栄養に係る課題の改善・解決への道筋を構築する能力を有している。
3. 複雑化・多様化する保健医療の場において、保健医療学の発展と地域への貢献のため、主体的に行動する意欲を有している。
4. 保健医療学の研究、保健医療の実践に係る倫理を深く理解し、諸場面に適用できる能力を有している。
5. 保健医療の実践に係る多職種連携・協働、保健医療学の探究に求められる高いコミュニケーション能力と機能推進のためのマネジメント力を有している。